

第5回筑紫野市都市計画マスタープラン策定会議の結果について

会議内容は、次のとおりです。

開催日時	平成27年11月30日（月） 14時00分から16時00分まで
開催場所	筑紫野市生涯学習センター3階 学習室5
出席委員数	9名
会議次第	<p>1. 開会</p> <p>2. 議事 第二次筑紫野市都市計画マスタープラン（案）について</p> <p>3. 事務連絡</p> <p>4. 閉会</p>
会議概要	<p>委員から出された質問・意見は次のとおりです。</p> <p><b>【第二次筑紫野市都市計画マスタープラン（案）について】</b></p> <p>○人口推計に出てくる「社人研」とは何か。 （事務局）国立社会保障・人口問題研究所の略称です。人口の統計をしている機関で、全国の市町村の人口推計を出しています。</p> <p>○目標人口は国土利用計画の時に使った、コーホート要因法によるシンプルな書き方でいいのではないか。 （事務局）第五次総合計画において、筑紫野市まち・ひと・しごと創生長期ビジョンによる人口の将来展望では、3つのケースで表しており、それに合わせた形で作成しています。どのような形で将来人口を示していくか、もう一度検討させていただきます。</p> <p>○地域別人口について、最新データが平成22年の国勢調査のデータになっているがちょっと古いのでは？住民基本台帳だと実態に近い数値なのでそちらを使っ てはどうか。</p> <p>○5年経っていると人口はそこまで差異はないかもしれないが、高齢化率は大きく変化があるのでちょっと厳しいのではないか。 （事務局）この問題は事務局でも議論させていただいています。住基のほうが平成27年の数字を拾えるが、学生さんが多い地域など住民登録はないが、住んでいるという実態もあり、マスタープランは基本的に実態に即した国勢調査の数値を使っています。対応について事務局で検討させていただきます。</p>

会議概要

○これから高齢化が進んでいくことを見込んで、都市づくりの中に医療との連携をどうするのか、高齢化社会を迎える際に都市計画の視点をもって、都市づくりのプランを考えておくべきではないか。

○寿命を延ばすだけでなく健康寿命を延ばしていくことが重要。

○郊外では医療施設がなくなる懸念があるが、福祉施策がコミュニティバスだけでよいのか。

(事務局) その視点は、どのように盛り込めるかも含めて、今後、検討させていただきます。

○御笠地域など地元から商業施設がないという意見が出ているが、都市マスの中にどういう形で反映されているのか。

(事務局) 御笠地域についてはほとんどが調整区域、都市計画区域外です。市としては筑紫野古賀線などの主要幹線道路沿道を沿道サービス等の業務ができるような土地利用の促進を検討させていただいているところです。陸上競技場跡地には、地域の農家の方が農産物を持ち寄って直売する施設ができるような地区計画も策定しておりますので、今後、そういった土地利用ができればと思っております。

○近くに買物施設がなく、不便なときにそこが市街化区域内だったら許可は下りるのか。

(事務局) 市街化区域内でも、出来る地域と出来ない地域があります。調整区域につきましては、基本的に集客施設は難しいですが、地域の声を聞きながら可能性のあるものについては、手法も含め、実現できる条件等を探りながら検討していくこととなります。

○医療と介護の連携を今後の方針として都市づくりの中に盛り込まれるのであれば、そういった計画と整合性をつけていかないといけないのかなと思いました。

○「本計画の実現に向けては、農政、商工、観光、環境、教育、福祉、防災など・・・」とあるが、文書中に医療を加えてもいいのではないだろうか。

(事務局) 検討させていただきます。

会議概要	<p>○今後20年に向けて、筑紫野市は目玉となるものを世間にアピールしながらブランド化していくべき。基肄城や史跡など、歴史資源は太宰府に負けないものがあるので、自然と歴史をもっとうまくブランド化を推進してまちづくりの中に組み込んでもらいたい。</p> <p>(事務局) 検討させていただきます。</p> <p>議事終了。</p>
------	--